

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈11月8日（金）放送分〉

テーマ「奄美先人の知恵」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は、毎月第2週に、奄美の文化・暮らしにおける先人の工夫などを紹介する「奄美先人の知恵」の8回目です。

現在、鹿児島県立奄美図書館では、「奄美群島日本復帰60周年記念、^{え ばら よしもり}恵原義盛没25年記念スケッチ画展」を開催中です。

恵原氏が生前に描いた奄美・沖縄のスケッチ画で、戦前の沖縄や米軍政府下の奄美群島、そして、日本復帰後の奄美の風景を知ることができます。

恵原氏は、奄美の民俗研究家として知られていますが、戦前は法務事務官として全国各地で勤務し、その土地の生活習慣などに関心を持ちました。そして、奄美の刑務所長として勤務していた昭和30年頃、当時、鹿児島県立図書館奄美分館長であった島尾敏雄氏などとともに、郷土の歴史・文化を掘り起こそうと、「奄美郷土研究会」を組織しました。民俗研究の最初の発表は、1959年、昭和34年発行の『奄美郷土研究会報』創刊号になります。その後、退職して郷里の根瀬部^{ねせぶ}に帰ると、果樹園を経営するかたわら、奄美の民俗研究に本格的に取り組み、『奄美生活誌』を書く作業に取りかかりました。

恵原氏は、『奄美生活誌』のまえがきの中で、「古俗^{こぞく}は年と共に一つ一つ消えていく、これを経験した人も年々減っていく。やがてこれを知る人は皆無^{かいむ}になる……要するに総ての古俗は記録に残されたものだけが、後世にその存在^{あか}を証すことになる。」と述べ、自分の体験と古老たちの記憶を、それが薄れぬうちに記録に残しておこうとしたものであるという執筆の動機を明らかに記しています。奄美に古くから続いていたと思われる明治・大正時代の習俗が、戦後急激に消えていくのを見るにつけ心を痛め、危機感をもっていたのです。

『奄美生活誌』には、奄美の交通、産業、まつりの儀式、衣・食・住、遊びなど、郷里の根瀬部を中心とした奄美の民俗について、436ページにも及ぶ、詳しい内容が書かれています。

『奄美生活誌』の「奄美のこども」の項目から、植物の花や実で作る遊び道具について、いくつか紹介しましょう。

「^{かし}榿の実をヤモといい、^{しい}椎の実をシーといいます。共にそのままに^{こま}独楽として遊びます。形が色々あり、よく廻るものを沢山の中から選ぶのも遊びの一つです。

^{そてつ}蘇鉄の実で色々な玩^{おもちゃ}具を作ります。最もよく作られたものは呼^{よびこ}笛でこれをナリヒュンといいます。これは中の実を^{えぐ}抉り出し、その穴を丸くしたものです。横に小穴をつけて指で^{ふさ}塞いだりして二つの音を出すようにもします。また、ナリでは水車を作ったり、色々な動物の形を作ったりもします。

蘇鉄の葉では色々なものを作ります。その葉をむしり去って葉柄を刀だとして剣劇ごっこをしたり、葉をつなぎあわせて眼鏡の形を作^{もつ}ってかけたりなどもするが最も利用されるのはガッタカゴ（いなご籠）です。これに^{いなご たんぼ かんしょ}蝗を田圃や甘 蔗畑から捕らえて来て鶏にやるのも子どもの遊びの一つです。」

文章を読むと、奄美での日常生活を、今見ているかのように思い浮かべることができます。また、恵原氏の奄美の生活そのものを愛する気持ちが、どのページからもあふれ出ています。恵原氏は、『奄美生活誌』のまえがきで、「南島では、美しい、きれい、うるわしい、ということ、を、『キョラサ』と言う。（中略）日本の古語にあっても、きよら（清ら）とのことばが、美しさの意味に使われていること、『源氏』や『竹取』などの古典にある通りであるが、それとは別に私は、清らかさを^{もつ}以て、美しさの形容詞とすることが南島に、日本の古代が生きていることを知る大事な資料の一つであることを感ずるのである。（中略）南島の人が、美しさを、華やかさ、めずらしさ、^{うるわ}麗しさに求めず、清らしさに求め、キョラサということばで表現することは^{すなわ}即ち、南島に古代日本の姿が現在生きている資料のひとつであるわけである。この南島人の『清らかさ』を理想とする生活の姿を記録しておくことが私の願望であり本稿はその一端のつもりである。」とも述べています。

奄美図書館で開催中の「^{えばらよしもり}恵原義 盛没25年記念スケッチ画展」で公開しているスケッチ画は、写真機、印画紙が高価であった時代に、恵原氏が自分の記録用として描いた一面があります。現在の奄美群島日本復帰60周年を迎えた風景と比べて、大きく異なる、当時の奄美の様子を知ることができます。そして、写真では記録できない恵原氏の奄美に対する熱い思いを感じることができると思います。

恵原氏のご遺族から貴重な資料をお借りし、奄美郷土研究会の協力をいただいて開催しているこのスケッチ画展は、来年の1月30日、木曜日までとなります。恵原氏の著書『奄美生活誌』『奄美のケンモン』などといっしょに、是非ご覧ください。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。